

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表日:令和5年11月27日

事業所名 障がい児童デイサービスセンターくれよん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	面積の広いデイルームを確保しており、利用状況に応じて使用している。	居室面積は広いが、部屋ごとに区切られておらず、騒音が苦手の利用者の過ごし場所が必要である。
	2	職員の配置数は適切である	○		シフト表を基に安全な支援ができるよう事前に話し合い、管理者が定期的にチェックしている。	人数的には確保できているが、見守り支援員としてシルバー人材センター派遣員に協力要請している現状となっている。放課後は、利用時間が短時間であるため、落ち着いた創作活動ができない現状となっている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		2階のデイルームを中心に活動しているため、エレベーターを活用している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	PDCAサイクルを活用していないが、なるべく毎日話し合うようにしている。	パート職員なども含めて、広く職員から意見聴取できる体制を作り実行していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者向けに利用に関する感想や要望等のアンケートを実施している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページ及び会報等でお知らせしている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者からの評価は行っていない。	
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修参加の機会を、全職員に回覧等で周知している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		会議を開催し、一人一人にあった個別支援計画書を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントシートを活用して、情報を収集している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		チームで話し合いを行いプログラムを立てている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用者に応じた支援方法を共有し実行している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		利用者に応じた支援方法を共有し実行している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々に合わせて活動を適宜組み合わせ計画作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打ち合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		必ず打ち合せを行い、役割分担の確認を全職員で行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打ち合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		当日に支援の振り返りができない場合は、翌日の午前中に振り返りを行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		情報共有を徹底し記録を取り、支援の検証や改善に繋げている。	
関係 機関 や保 護者 との 連携	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		見直しをする時は支援会議等を行い、合同で判断している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		「地域交流の機会の提供」がほとんどできていないため、今後は積極的に地域交流を図っていきたい。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校との情報共有や連絡調整を適切に行い、安心して利用できる環境づくりをしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	看護師は配置していないため、医療的ケアの受け入れはしていない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保育所・幼稚園等と連携し児童の理解に努めている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		適切な支援をそれぞれの事業所で提供できるように各関係機関と連携を図り、途切れない支援を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		個々に沿った支援を行うために必要に応じて専門機関と連携を図っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		内部の児童クラブとの交流を定期的に計画していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		場面と方法を配慮しながら伝えるようにしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		保護者からの相談があった時は、専門機関と連携し対応していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		内容に変更があった際に随時説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		普段から相談しやすい環境づくりに努めている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		今後の課題として検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情内容や原因を検討して改善に繋げている。	検討はしているものの、保護者が納得のいく返答となっておらず、適切に対応していないことも考えられる。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35	個人情報に十分注意している	○		職員会議等で定期的に周知徹底を図っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		カードやボード等を活用し、コミュニケーションがうまく図れるように工夫している。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		今後の課題として検討していく。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時対応マニュアルを常時送迎車輛に搭載し、また個別にも携帯していただいている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			